



大脳意識を調整し、自己コントロールによる気功療術師が 宇宙エネルギーを吸収する六次元（段階）

人間が肺から空気を吸い、飲食物を摂取する方法を使った以外、生体エネルギーを補強し、より多くの強い生命力に転換させようとするなら、大脳の意識を活用し、潜在的にある人体のメカニズムを働かせるほかなりません。

しかし、一般的に言えば、人体エネルギーと外部空間のエネルギーでは、それぞれに、ほぼ安定状態に保たれています。従って、大脳の意識を活かして外部空間のエネルギーを吸収する人体のメカニズムを開発させるには、必ず順序良く行い、この人体と宇宙空間にある「壁」を打破しなければなりません。そのため、人体意識の修練法に関する古今東西の文献を参考に、修練するには欠かせない六次元（段階）を以下にまとめました。

1. 「心理的自己暗示」の次元

人間が生来の習性により、常に意識の中では、雑念が生じて止まない。古代では、「万の念」と称しています。そこで、力強い自主的な主意識を使って、夕子の悪い雑念を置き換えるのが、この雑念を取り払う最も良い方法となります。故に「一念代万年」（一念で万の念を代える）

心理的自己暗示の次元では、自主的に良性的意識を活かして種々の雑念を代替させることを行います。自分の意識を集中し、特定な修練をする心理状態にさせることです。例えば、山、川、天、地、ある物、宇宙などと変身するよう、自分に暗示をかけるとか！